

地域資源をフル活用したトマト長期栽培

技術の概要

木骨ハウス、杉皮床を利用したインタープランティング栽培

○栽培床の有効活用：2回定植（インタープランティング）で長期収穫

- ①1作目：3月上旬定植→7月末収穫終了（7段、約10t/10a）
- ②2作目：7月上旬定植（株間）→翌年2月まで収穫（14段、約20t/10a）

○つる下げ作業の省力

- ①高軒高（3.9m）の木骨ハウス利用で、つる下げ約90%省力化
（1作目：つる下げ作業無し、2作目：1回のみ実施）

○低コスト栽培床

- ①簡易隔離床と粉碎杉樹皮の使用で約40%の低コスト化

○収量性

- ①環境制御技術と組み合わせて単収30tを実現見込み

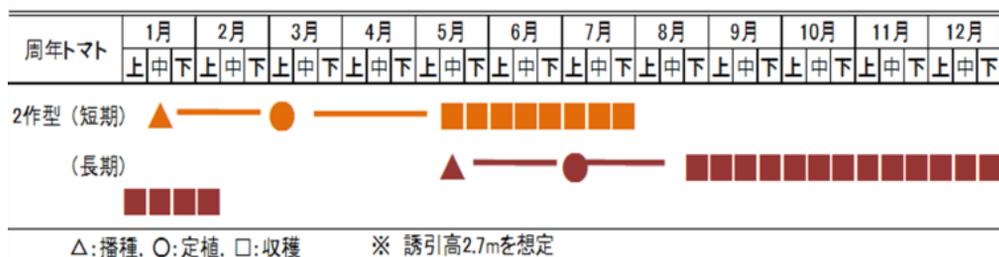


図1 インタープランティングの作型



図2 インタープランティング

期待される効果

- ①単価が約87%向上（393円/kg←現行210円/kg）
（高単価期の収量増、低単価期の出荷量調整による）
- ②収量が約112%向上（21,230kg/10a←現行10,000kg/10a）
（5～2月までの長期出荷による）

【お問い合わせ先】 岩手県農業研究センター技術部南部園芸研究室
T E L 0192-55-3733 F A X 0192-55-2093

当技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。